

室戸半島横断水準測量（第1回：2001-2002）について

Leveling Survey carried out across the Muroto Peninsula, Kochi, Shikoku, Japan in 2001-2002.

大村 誠[1], 前空 英明[2]

Makoto Omura[1], Hideaki Maemoku[2]

[1] 高知女子大・生活・環境理, [2] 広大・教・地理

[1] Dept. of Environmental Science, Kochi Women's Univ., [2] Geography, Edu., Hiroshima Univ.

高知県東部、室戸半島周辺では、室戸沖の南海トラフで発生する巨大地震などの地殻活動に対応して、特徴的な地殻上下変動が沿岸路線の水準測量によって観測されることが知られている。しかし、沿岸のみの水準測量路線では、室戸半島内陸部での上下変動パターンを正確に推定できないため、半島を横断する路線での水準測量が望まれていた。

その路線として、高知県安芸郡田野町の国土地理院水準点 5156 と、半島を越えた同郡東洋町の水準点 5125 を結ぶ路線が選定された。2001年7月に、ほぼ国道493線沿いに84点の水準点を設置した(大村・前空, 2001, 前空・大村, 2002)。2001年12月, 2002年3月, 9月, 10月, 11月に、デジタルレベル(Leica NA3000)と同社の3mインバール標尺を用いて水準測量が行われた。総路線長は46.7km(うち両端部それぞれ約10km, 計約20kmは往復), 路線での最大比高は433mであった。その第1回の測量について概要を報告する。今後の再測によって、この地域の地殻変動の理解が進むことが期待される。

なお、京都大学理学部地球物理学教室測地学講座の多大なご協力をいただいた。また、この測量は広島大学後援会研究助成(平成13年度)および高知女子大学生生活科学部長留保金充当事業(平成14年度)として行われた。